

**確かな防除で、納得の作物づくりへ。
食べる人の喜びこそ、すべて。**

- 新規作用性で広範囲の害虫を防除。
- 10～14日間の長期残効で、作物の健全な生育をサポート。
- 天敵・訪花昆虫に対する高い安全性でIPMプログラムにも適合。



野菜散布用殺虫剤

デュポン™

ベネピア®

powered by
CYAZYPYR®

OD

**ミニトマト
たまねぎに
適用拡大!**

幅広く害虫を防除

アザミウマ類、ハモグリバエ類、アブラムシ類、コナジラミ類、キスジノミハムシ、チョウ目害虫に高い効果を示します。

10～14日間の持続効果

10～14日間の長期残効性で作物を健全に生育させ、より高い品質と収量が期待できます。

天敵・訪花昆虫に対する高い安全性

ハチ類の導入も制限が少なく、IPMプログラムにも高い適合性があります。

■適用害虫と使用方法(色文字が適用拡大部分)

2017年5月現在

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロロールを含む農薬の総使用回数
キャベツ	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ、ウババエ類、オオタバコガ	2000～4000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は1回以内、 定植後の散布は3回以内)
	アザミウマ類、アブラムシ類	2000倍					
はくさい	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ ハスモンヨトウ、ハイマダラノメイガ	2000～4000倍					
	アブラムシ類	2000倍					
だいこん	コナガ、アオムシ、ハイマダラノメイガ カブラハバチ	2000～4000倍					
	ヨトウムシ	4000倍					
	アブラムシ類、ハモグリバエ類 キスジノミハムシ	2000倍					
ブロッコリー	アオムシ、ハスモンヨトウ、コナガ	2000～4000倍					
	アザミウマ類、アブラムシ類	2000倍					
トマト	オオタバコガ	2000～4000倍					
ミニトマト	ハモグリバエ類、コナジラミ類、アブラムシ類	2000倍					
きゅうり	アブラムシ類、コナジラミ類 アザミウマ類、ハモグリバエ類、ウリノメイガ						
ピーマン	アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類	2000～4000倍					
	オオタバコガ						
レタス	オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ	2000～4000倍					
	ハモグリバエ類、アブラムシ類						
ねぎ	シロイチモジヨトウ アザミウマ類、ハモグリバエ類	2000倍					
	ハスモンヨトウ	2000～4000倍					
いちご	アザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類	2000倍					
	アブラムシ類						
えだまめ	ハスモンヨトウ、マメシンクイガ	2000～4000倍					
	アブラムシ類	2000倍					
だいず	アブラムシ類	2000～4000倍					
	アブラムシ類		2000倍				
やまのいも	ナガイモコガ、ハスモンヨトウ	4000倍					
かんしょ	ハスモンヨトウ、ナカジロシタバ						
ばれいしょ	ハスモンヨトウ	2000倍					
	アブラムシ類						
かぼちゃ	ハスモンヨトウ	4000倍					
	ヨトウムシ						
たばこ	ヨトウムシ	100～180ℓ/10a	収穫10日前まで	2回以内	2回以内		
たまねぎ	ハモグリバエ類	2000倍	100～300ℓ/10a	収穫14日前まで	3回以内	3回以内	

△ 効果・薬害等の注意

- 使用前によく振ってから使用してください。
- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。
- 散布液調製後はできるだけ速やかに散布してください。
- アルカリ性の農薬や肥料との混用は避けてください。
- やむを得ず、他の薬剤と混用する場合には、事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。特に、TPNを含む農薬、ストロビリリン系の薬剤を含む農薬および銅剤との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしないでください。
- トマト及びミニトマトに使用する場合、ストロビリリン系薬剤を含む農薬を散布した場合には、散布後2週間以上間隔をあけて本剤を使用してください(薬害)。
- ねぎ以外の作物に使用する場合、展着剤を加用すると薬害を生じる場合があるので、展着剤は加用しないでください。ねぎに使用する場合、展着剤加用に当たっては事前にその適否を確認してください。
- 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節してください。
- 過度の運用を避け、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせて使用してください。
- つみみ菜・間引き菜には使用しないでください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

△ 安全使用上の注意

- 誤飲などのないよう注意してください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすしてください。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 室に対して影響があるので、周辺の農薬にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響を与える恐れがあるので、散布の際はミツバチ及び巣箱にかからないようにしてください。また、散布直後から1日後まではミツバチを散布区域外に移動させるが、巣門を閉じてください。
- 使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 密栓し、直射日光を避け、食品と区別して、冷涼な所に保管してください。


グループ	28	殺虫剤
------	----	-----

殺虫剤抵抗性管理(IRM)

一般推奨事項：薬剤抵抗性の急速な発達を防ぐために、同一作用機構を持つ製品を連続する複数の害虫世代間にわたって処理することは避けること。ブロック式ローテーション、即ち、デュポン™ベネビア®ODまたは他のグループ28殺虫剤の「ブロック」の後に、異なる作用機構を持つ有効な殺虫剤処理の「ブロック」が続く形でローテーションを使用すること。作付期間(播種から収穫まで)を通して適応されるすべての「グループ28使用ブロック」の合計暴露期間は作付期間の50%を超えてはならない。栽培期間の短い作物は1栽培期間を1ブロックとする。IPM手法の一環として防除体系に組み込むこと。

害虫の抵抗性、作用機構及びモニタリングに関する追加情報の参照サイト
 (1) Insecticide Resistance Action Committee (IRAC) ウェブサイト(<http://www.irac-online.org>)
 (2) デュポン株式会社ウェブサイト「デュポン 抵抗性」で検索

デュポン™ベネビア®ODについて、ご紹介しております。左記QRコードをスキャンしてご覧ください。



●ラベルをよく読んでください。 ●記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。 ●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。 ●防除日誌を記帳しましょう。